

米エリートたちは、世界が米に反逆しつつあることを認め 始めた

ワシントンは自分以外に誰も責められない

<https://www.rt.com/news/576588-resistance-us-washington-imperialism/>

RT/ Daniel Kovalik

May 26, 2023



元ホワイトハウス高官が、この国の帝国主義への抵抗が強化されていく現実を認めている。

エストニアの首都タリンでの、最近のある興味深いスピーチで、元ホワイトハウス高官 Fiona Hill は、少なくともワシントンの誰かが自己認識し、世界で何が起きているかに気づいていることを示した。

フィオーナ・ヒルは、ウクライナの紛争が、ロシアによって導かれた、アメリカの覇権主義に対する地球的な「代理反乱」を起こすに至ったと言った。これは完全な真実で、昨年春にモスクワの軍事侵攻が始まった最初から、我々の多くの者に見えていたことである。しかしこの反乱は、見えてくるのに時間がかかった。そしてアメリカは完全に、自分自身の行動によって自らそれを招いたのである。

第一に指摘しておかねばならないことは、現在のロシアの前身であるソ連邦が、その歴史の長い期間を通じて、アメリカに対する反逆を先導したことである。特に冷戦期間、モスクワの強力な支持がなければ、ラテンアメリカ、アフリカ、アジアなど第三諸国における、

西洋植民地主義の転覆の試みはなかった。アメリカは必死になって、この植民地システムを守り通そうとした。実際、冷戦とは、植民地主義をめぐる米ソの巨大な代理戦争で、このシステムを保持しよう闘うアメリカと、それを壊そうと闘うソビエト連邦の戦争であった。世界人口の多くは、ソビエトが彼らの植民地の鎖を断ち切ろうとしたことによる、影響力に感謝し続けている。

ロシア連邦は、最近、彼らの 2023 年 3 月 31 日外交政策声明において、このことを認めた。そこで述べていることは、ソビエト連邦の外交政策の主たる業績は、第二次大戦でナチズムを敗退させたこと、それに、世界の脱植民地化に成功した、その役割についてである。現代のロシアは、旧ソ連の「法的後継者」として、これらの目標を追求し続けていると明言している。私が、ロシアと 5 月 9 日の戦勝記念日から帰ってわかったことは、ロシアの民衆はこれらソ連邦の業績をずっと大切にしていることで、サンクトペテルブルグからヤルタまで、私の訪問したあらゆる都市で、ハンマーと鎌の赤い旗が、どこにでも見られた。

一方、東側ブロックが 1989 年に崩壊し、ソ連邦が 1991 年に崩れた後で、アメリカの見たものは、世界がほとんど手つかずの状態、西側の支配を再び主張する機会がやってきたことだった。アメリカは自分の目標を「ボックス・アメリカーナ」と称するものの、その方法は平和とは何の関係もなく、戦争だけが関心事だった。ワシントンは、パナマ (1989) から、イラク (1990)、セルビア (1999)、アフガニスタン (2001)、再びイラク (2003) とリビア (2011) に至るまで、ひっきりなしに他国の侵略と攻撃を続けた。そこには、その間にアメリカが仕掛けた、より小さい侵略や、多くの代理戦争・テロ戦争は含まれていない。たとえば 2011 年に始まったシリア、2014 年にクーデタによって起きたウクライナでの戦争である。

ロシアと世界の残りの者たちは、すぐれたアメリカの軍事力に抗う力もなく、ほとんど坐してこれを眺めるだけだった。しかし怒りと怨恨は増大した。理由は、これらの戦争は必要でもなく、正義の戦争でもなかったからだ。それらは勝手に決めた戦争で、アメリカが、自分の経済的・地政学的な利益と見たものを、保護するためだった。そして彼らは、この行動を「人道主義的」なものと言いくるめた。原則として彼らは、こうした介入を、相手国の人々を「圧政的」で「残忍な」または「独裁的な」政権から保護するために、必要なのだと主張した。アメリカの民衆は、大抵はこうした正当化を認めたが、世界の残りの者たちは、その明らかな馬鹿々々しさに顔をしかめた。

2015 年、ロシアの熊が再び目を覚まし始め、シリアに介入して、この国に対する残忍なテロ戦争に、反撃を開始した。これはアメリカが活発に挑発し、応援したものだ。

アメリカは、全世界が自分と共に立ち上がって、ウクライナでのロシアの行動に反対していると、言おうとしているが、これは本当のことではない。アメリカの高官たちはそれを知っている。「世界」は、ラテンアメリカや、アジアや、アフリカが、そこから除外されるなら、確かにアメリカを支持している。しかし、この惑星のほとんどの人々の住むこの地域は、アメリカ人を支持しなかったし、今も支持していない。これらの地域の多くの国家は、アメリカが彼らの裏庭に勝手に侵入してきて、侵略戦争やクーデタを行い、武装反乱兵を支援したりするのを、常に警戒している。だから誰か——つまりロシア——が、ついに戦争に戻ってきたことを歓迎したのだ。一方、長期の同盟者で、その陰謀的な帝国主義においてアメリカの仲間だったサウジアラビアでさえ、オイル供給の増加を拒否することによって、アメリカとは決別したのである。サウジは更に、イランとの友好関係を開始し、世界はワシントンの干渉にはうんざりしていることを示している。

米政府はこれを見ないふりをしており、アメリカの民衆の多くは、実際これが見えず、現実をうやむやにして消し去るといふ、プロパガンダとその能力が見えている。ここでまたしても思い出すのは、劇作家ハロルド・ピンターのノーベル賞スピーチである。彼はアメリカの絶対者気取りを叱り、それは「第二次大戦後の世界の、あらゆる右翼軍事独裁を支持し、多くの場合、それを産み出して何十万という死者を作り出した」と言った。しかしプロパガンダの力によって、「それは起こっていないのだ」とピンターは言った。「それが起こっている間にも、それは起こっていないのだ。アメリカは世界中で、権力の臨床医的ごまかしを行使しながら、普遍的な善のためには、やむを得ない行動に見せかけてきた。」ピンターに言わせれば、それは「非常にうまくいった催眠術なのだ。」

そろそろ、アメリカの民衆も、自分の国が犯してきた犯罪に目覚める時である。そして世界の残りの人々が苦痛とともにそれを自覚し、反乱を起こそうとしている事実を知るべきである。それを認めた後に、アメリカ人はようやく、そのように行動した政府の責任を問うことができるだろう。そして、身に覚えのない暴力を理由に、人々を敵に回すことを、やめるように要求すべきである。そして、それとは反対に、他の国々には同等者として接触し、貧困、病弊、環境の悪化といった、世界の緊急の問題に取り組むべきである。それが人類を救うことのできる唯一の行動の方針である。

[訳者 Greatchain 注]

この論説は私がここで訳したものの中でも、最も観点が公平であり、説得力を持つものの一つである。このような観点でも見なければ、すなわち、これまでのようなアメリカの戦争によって、誰が最も被害を受け、苦しむようになったかという観点がなければ、何も解決しないということである。ウクライナで最も苦しんでいるのは、ロシア人・ウ

クライナ人といった区別をしない、非武装の一般民衆だった。どこかの国のように、始めからロシアを悪と決めつけて行動するなら、とんでもないことが起こる。ロシア人なら死んでもよい、ということになる。困っている人たちに兵器を送って助けるなどというのは、まったく見当違いだった。それはアメリカを世界の標準とする誤算であった。そういう鈍感で愚かな考えが、いまだに横行している。「そこに住んでいる人々」ということがこの論者のポイントである。「我々は正義(?)のために戦っている、そこに住んでいる人々のことなど考えない」というのが、伝統的なアメリカの戦争だった。そして誰もこれを気にさえ留めなかった。そこでやっと、真の意味での「反乱」が起こるようになった、やっと目が覚めた、というのが本論の趣旨である。「時代遅れ」という日本に対する誰かの警告もそれである。